

大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップ (第2回)

＜表大雪地域＞

日時：平成30年7月2日（月）14:30～

場所：旭川地場産業振興センター 会議室

＜東大雪地域＞

日時：平成30年6月29日（金）15:00～

場所：鹿追町役場 3階研修室

プログラム

1. 開会
2. ワークショップ開催の趣旨、第1回ワークショップの結果及び同結果を踏まえた民間団体の協働型管理運営体制への関わり方に関する提案
(30分)
3. ワークショップ「登山道維持管理部会で実施したいこと」(50分)
4. まとめ(10分)
ワークショップ全体のまとめとして有識者からのコメント

＜資料一覧＞

- 資料1 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップの開催趣旨
- 資料2 第1回ワークショップの結果概要
- 資料3 第1回ワークショップの結果を踏まえた民間団体の協働型管理運営体制への関わり方に関する提案
- 資料4 ワークショップの進め方
- 参考資料1 第1回ワークショップの結果（詳細版）

平成30年度 大雪大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップ（第2回）

平成30年7月2日

表大雪地域出席者名簿

※敬称略

所属	出席者	
	役職	氏名
上川中部森林管理署	署長	中澤 文彦
	地域統括森林官	二階堂 辰也
	首席森林官	本間 秀樹
	首席森林官	高橋 秀典
	首席森林官	石塚 直樹
	森林官	渋谷 勝義
	主任森林整備官	宇佐美 和宏
		阿部 青空
上川南部森林管理署	次長	荒谷 和弘
	森林官	中村 崇
	事務管理官	村上 雅典
上川総合振興局 環境生活課	主査(山岳環境)	福井 拓郎
	主事	神谷 一太
上川総合振興局 南部森林室	管理係長	北村 正司
富良野市	商工観光課 観光係	対馬 健介
上川町	産業経済課 課長補佐	西木 光英
	主事	三浦 大輝
東川町	産業振興課 商工観光振興室長	田淵 浩
上富良野町	企画商工観光課 主査	岩田 守高
	企画商工観光課 主査	石川 雅憲
公益社団法人 日本山岳会 北海道支部	支部事務局長	藤木 俊三
上川山岳会	顧問	澤崎 新一
美瑛山岳会	理事長	内藤 美佐雄
上富良野十勝岳山岳会	事務局長	角波 光一
富良野山岳会	理事長	山名 賢一
大雪地区自然公園指導員連絡協議会	事務局長	
大雪山国立公園パークボランティア連絡会	副会長	立原 祥弘
大雪山国立公園研究者ネットワーク	北海道大学 教授	渡辺 悌二
	北海道大学 大学院生	小林 勇介
北海道大学大学院農学研究院	准教授	愛甲 哲也
山岳レクリエーション管理研究会	事務局長	山口 和男
	研究メンバー	三木 昇
山のトイレを考える会	事務局長	仲俣 善雄

所属	出席者	
	役職	氏名
株式会社りんゆう観光	層雲峡事業所 所長	山崎 弘二
(有)風の便り工房	代表	佐藤 文彦
合同会社 北海道山岳整備 大雪山・山守隊	代表	岡崎 哲三
		下條 典子
		菅原 圭祐
旭岳ビジターセンター		大塚 友記憲
東川エコツーリズム推進協議会		
層雲峡ビジターセンター	館長	片山 徹
山岳ガイド協会表大雪地区連絡調整室		中川 伸也
山樂舎BEAR	代表	佐久間 弘
大雪山倶楽部	代表	愛澤 美知雄
		森田 秀明
山岳ガイド		池永 甦次
大雪と石狩の自然を守る会	事務局	竹田 洋子
大雪山自然学校	代表理事	荒井 一洋
	旭岳自然保護監視員	藤 このみ
NPO法人 ezo rock	プロジェクトコーディネーター	水谷 あゆみ
NPO法人かむい	代表理事	濱田 耕二
北海道地方環境事務所 国立公園課	課長補佐	柳川 智巳
上川自然保護官事務所	首席自然保護官	梶 厚生
	自然保護官補佐	大久保 智子
	自然保護官補佐	岩城 大洋
東川自然保護官事務所	自然保護官	齋藤 明光

平成30年6月29日

平成30年度 大雪大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップ（第2回）

東大雪地域出席者名簿

		※敬称略
所属	出席者	
	役職	氏名
十勝西部森林管理署東大雪支署 総務グループ	事務管理官	日野 道俊
	一般職員	小菅 尊祐
十勝総合振興局環境生活課	主任	牛嶋 あすみ
上川総合振興局環境生活課		欠席
士幌町 産業振興課	主任	増田 紀
上士幌町 商工観光課	主幹	鶉橋 浩行
鹿追町 ジオパーク推進室		大西 潤
新得町 産業課	主事	本田 浩平
ひがし大雪自然ガイドセンター	代表理事	河田 充
株式会社北海道ネイチャーセンター	チーフマネージャー	石川 昇司
ボレアルフォレスト		阿久澤 小夜里
北海道山岳ガイド協会		欠席
東大雪地区連絡調整室		
新得山岳会	会長	小西 則幸
	事務局長	富山 幸朗
十勝山岳連盟	会長	齊藤 邦明
	理事長	荒堀 英雄
日本山岳会北海道支部	事務局長	藤木 俊三
しほろ自然環境に親しむ会		欠席
山のトイレを考える会	副代表	小枝 正人
大雪山国立公園研究者ネットワーク		欠席
合同会社 北海道山岳整備 大雪山・山守隊	代表	岡崎 哲三
		下條 典子
		菅原 圭祐
山樂舎BEAR／層雲峡ビジターセンター	代表	佐久間 弘
自然公園指導員		欠席
大雪山国立公園パークボランティア連絡会		欠席
上川自然保護官事務所	首席自然保護官	桵 厚生
上士幌自然保護官事務所（事務局）	自然保護官	原澤 翔太
	自然保護官補佐	上村 哲也

大雪山国立公園における 協働型管理運営体制の構築に向けた ワークショップの開催趣旨

平成30年7月2日(月):表大雪会場

平成30年6月29日(金):東大雪会場

上川自然保護官事務所
東川自然保護官事務所
上士幌自然保護官事務所

大雪山国立公園の 管理運営における課題

- ①登山道の荒廃、野外のし尿の散乱といった課題
- ②川、湖沼、温泉、峡谷等の自然資源の利活用や外国人の対応に関する課題
- ③これらの取組を行うための一元的な合意形成と情報発信体制

課題解決に向けて

新たな協働型管理運営体制(案)

現在の体制

大雪山国立公園 連絡協議会

(環境省・北海道・市町)

登山道関係者による 情報交換会

(民間団体(山岳会、ガイド、事業者、
自然保護団体等)、関係行政機関)

拡充

メンバーは
そのまま
移行

今後の体制のイメージ

大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)

※メンバーの拡充

(各立場の意見を担う又は代表するような団体が参加)

※将来像(ビジョン)づくり

登山道維持管理部会 (表大雪)

登山道維持管理部会 (東大雪)

協働型管理運営体制とは

- 国立公園に関係する環境省以外の国の機関、自治体、民間団体、公園事業者など多様な主体が参画する総合型協議会を中心とする体制
- 国立公園の将来像(ビジョン)、国立公園の管理運営方針や行動計画を定める体制
- 全国の国立公園で準備が整い次第、この体制を構築すること(平成26年7月7日付 環境省自然環境局長通知)

ワークショップの開催趣旨

- 大雪山国立公園の管理運営や利用状況を踏まえると、国立公園の将来像(ビジョン)を描くためには、
- 協働型管理運営体制に、登山道の整備や維持管理、登山利用、ガイド利用をされている民間団体の皆様に参画いただくことは不可欠。
- そこで民間団体の皆様が、協働型管理運営体制にどのように関わり対応していくべきかを考えるワークショップを実施。

参考1：大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会） 設置及び準備会開催に向けた調整状況（H30.6現在）

➤ 現在の大雪山国立公園連絡協議会構成員

→平成30年5月11日大雪山国立公園連絡協議会総会で今後の流れ了解済。

→ただし、既存の大連協と新たな大連協の性格の違い、体制の詳細等、準備会を開催する中で議論して詰めていく必要があります。

➤ 上記以外の関係行政機関

→今後の流れ了解済（個別に照会、回答）。

➤ 観光関係団体・交通事業者

→ほぼすべて今後の流れ了解済（個別に照会、回答）。

➤ 研究者・自然保護団体等

→参画を前提に、位置づけや役割等を含め調整中。

参考2：大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会） 設置及び準備会開催に向けた今後のスケジュール（予定）

➤ 平成30年8月頃まで

○大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（仮称）開催に向け、参加予定機関・団体から、大雪山国立公園に関する関心事項等の照会、洗い出し。

➤ 平成30年10～11月頃

○大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（仮称）開催

○大雪山国立公園ビジョンの策定に向けた関心事項等の洗い出し結果について報告、議論。出席は担当者レベル。

➤ 平成30年12月～平成31年1月頃

○大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（仮称）開催

○大雪山国立公園ビジョンの策定に向けた論点整理、骨子案作成。出席は担当者レベル。

➤ 平成31年3月頃（最速で）

○大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）設立総会

第1回ワークショップの結果概要



開催日時等

	開催日時	開催場所	参加者数
表大雪地域	平成30年 3月7日（水） 13：30～16：30	上川総合振興局 3F 講堂 （旭川市）	27名 ・民間団体25名 ・学識経験者2名 （27名を2グループに分け実施）
東大雪地域	平成30年 3月15日（木） 13：30～16：30	とかちプラザ 403会議室 （帯広市）	11名 ・民間団体9名 ・学識経験者2名 （11名1グループで実施）

第1回ワークショップ参加者

- 主に表大雪および東大雪登山道関係者による情報交換会にご出席の、行政を除く民間団体の方々に参加を呼びかけ。
- 大雪山国立公園の協働型管理運営体制に関する有識者

ワークショップ1

「新しい協働型管理運営体制」についての両地域共通の意見と地域ごとの主な意見

	両地域共通の意見		
		表大雪地域の意見	東大雪地域の意見
心配や 関心事	新しい協働型管理運営体制についてイメージができない	- 管理側の高齢化や将来的な人材育成 - 新しい体制の資金面(予算)の裏付け	- 行政体制への疑問 - アクセス道路の不通箇所について - 携帯トイレブースの促進 - 現場での具体の問題と体制の結びつきがわからない
今後参加が 必要と思われる人 や団体	- 一般登山者 - 近郊都市の関係者	- 地元農家 - アウトドア事業者 - アイヌ民族 - 試案メンバーで十分	- 動物専門家 - 地元教員 - 表大雪メンバー
運営に関する アイディア	総合型協議会や登山道維持管理部会への民間団体の関わり方について	- 協力金・基金等の活用 - 運営や情報発信について	- 議論の内容の具体化 - フォーラムの開催 - 表大雪地域との合同情報交換会

ワークショップ2

「協働型管理運営体制への参画」についての両地域 共通の意見と地域ごとの主な意見

	両地域共通の意見		
		表大雪地域の意見	東大雪地域の意見
参画への 心配事	・ 高齢化や人材育成について ・ 団体の負担増加に対する懸念	・ 意見の集約ができるか	・ 体制が継続して機能していくか
参画のため のより良い 環境とは	・ 参画しやすい体制づくりと参加者の立場の明確化	・ 情報発信と共有 ・ 管理団体一元化	・ 許認可の簡素化
新しく試し見 たいこと	・ 民間資金の調達 ・ SNSでの情報共有・発信、情報の一元化	・ 議論を効率的に行う運営メンバーの設置	・ 外国人対応

まとめ

- 第1回ワークショップに参加した民間団体は、大雪山国立公園の高山帯（特に登山道）の維持管理や利活用に携わる団体が多いため、それらの課題や今後の取組について具体的な意見が出され、今後も議論を深めることができる可能性があると考えられた。
- 一方、総合型協議会については山麓部や登山道の利活用以外の分野の話題も含むため、協働型管理運営体制に対する関わり方が現時点ではイメージしにくいものと考えられた。
- 今後は、今回ワークショップに参加した民間団体の得意分野を活かせるような、協働型管理運営体制への関わり方を検討していくことが重要であると感じた。

第1回ワークショップの結果を踏まえた 民間団体の協働型管理運営体制への 関わり方に関する提案



第1回ワークショップから見た方向性

- ①新たな協働型管理運営体制へは、登山道関係の民間団体の知見を活かしやすい登山道維持管理部会を通じて関わる。
- ②登山道維持管理部会での充実した活動が、大雪山全体の管理運営体制の充実化に結び付く仕組みをつくる。



★第2回ワークショップ以降は、
登山道維持管理部会の前身となる、
登山道関係者による情報交換会メンバーで議論を深めたい。

民間団体の協働型管理運営体制への 関わり方に関する提案

- ① 総合型協議会では、登山道問題を重要事項として取り扱い、その専門的な検討を部会に委ねる位置付けを明確化する。
- ② 総合型協議会へは、登山道部会の代表者が出ることで民間団体の意見を反映させる。
- ③ 民間の意見を代表する団体やネットワーク等ができた場合、その時点で、総合型協議会へ参加する。
- ④ 情報交換会を登山道維持管理部会に変更すること及びその取組内容を本メンバーで具体化していく。

大雪山国立公園における新たな協働管理運営体制(案)

(平成30年 6 月追記)

<ポイント>

- ①現在の大雪山国立公園連絡協議会のメンバーを拡充し、総合型協議会として位置づけ(大雪山国立公園のビジョンや課題解決のための方針や計画について関係者で協議)。
- ②総合型協議会の下に地域別に登山道維持管理部会を設置する(登山道等の維持管理のための調整や合意形成)。
- ③大雪山全体を活動範囲とし、かつ民間資金の受け皿となるような公園管理のための民間団体の育成を目指す。

大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)

<役割>

- ・国立公園のビジョン作成
- ・国立公園の利活用や保全上の課題の解決についての方針・計画作り

<メンバー>

- ・環境省、北海道、1市9町(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)
- ・関係行政機関(上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、十勝西部森林管理署東大雪支署、旭川開発建設部、帯広開発建設部、北海道運輸局)
- ・観光関係者(ふらの、層雲峡、ひがしかわ、美瑛、かみふらの十勝岳、南富良野まちづくり各観光協会)
- ・ロープウェイ事業者
- ・バス事業者
- ・国立公園管理の中核を担う民間団体
- ・自然保護団体
- ・研究者(大雪山研究者ネットワーク)
- ・ビジターセンター関係者

<協議課題>

- ①国立公園のビジョン、利活用、課題解決のための方針・計画づくり

「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」パートナーシップ事業開始(2018 年目標)

「大雪山国立公園ビジョン」の作成(2020 年公表目標)

- ・山岳地域の上質な空間の保全(大雪山縦走路の活用)
- ・利用可能な資源の開拓、高付加価値のツーリズムの展開
- ・利用拠点の活性化
- ・公園内外の連携、プロモーション促進(ターゲットとそれに応じた利用メニュー開発)
- ・外国人登山者の適切な利用促進に向けた活動
- ・利用者負担(協力金)のあり方検討

「大雪山国立公園管理運営計画」策定(2020 年作成目標)

「大雪山国立公園登山道管理水準」改訂(2021 年作成目標)

- ②情報の一元化と情報発信(民間団体が育成されるまでの当分の間)

「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」改訂(2021 年作成目標)

<予算>

1市9町からの負担金(従前の大雪山国立公園連絡協議会の負担金の金額を変更せずに継続)

<事務局>

環境省(業務の一部を民間団体に請負)

※大雪山の場合ステークホルダーが多いので、例えば「宿泊施設の意向については観光協会が代表する」などの関係者間の関係を明らかにする
 ※士幌、上士幌、鹿追、新得の観光協会は役場に同じ

ビジョンの作成、その他総合型協議会の協議事項に対して、登山道の維持管理の専門的な立場から意見を述べる。
 (民間団体の意見も反映)

登山道部会代表者

取組結果報告

<幹事会>
 担当者による連絡調整

必要に応じた作業部会

<役割> 方針・計画づくりに関する実質的な議論

<メンバー> 総合型協議会メンバーから手上げ方式により選出

※議論の内容によってはメンバー外の出席を求め、意見を聴くことができる。

<事務局> 環境省

登山道問題を
 最重要課題として位置づけ

登山道部会の位置づけ、
 役割を明確化

部会設置
 検討指示

表大雪登山道維持管理部会(※)

<役割>

登山道等の維持管理活動に関する総合調整と合意形成

<メンバー>

- ・国立公園制度: 環境省
- ・土地所有者: 森林管理署、北海道
- ・歩道事業執行者: 関係市町: 北海道、1市5町(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町)、りんゆう観光
- ・国立公園管理の中核を担う民間団体
- ・山岳会関係者
- ・ガイド事業者
- ・ビジターセンター関係者
- ・保全活動団体(パークボランティア等)
- ・整備の専門家
- ・研究者、自然保護団体 等

<活動内容>

- ①維持管理活動の PDCA サイクル実施と検証
- ・歩道等維持管理実施手順マニュアルに基づく関係者間の調整、作業結果の検討
- ・活動の広報、人材育成(セミナー、ボランティア受入)、技術の蓄積と伝承
- ②登山道等維持管理の適正化に向けた議論
- ・歩道事業未執行区間の解消
- ・施設の老朽化対策

<事務局>

環境省(業務の一部を民間団体に請負)

東大雪登山道維持管理部会(※)

<役割>

同左

<メンバー>

左の中で東大雪に関わる者と関係4町(新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)

<活動内容>

同左

<事務局>

同左

登山道維持管理部会での充実した活動が、大雪山全体の管理運営体制の充実化に結び付く

どのような
 活動を実施
 するかが重要

(※)総合型協議会とは独立並行して準備を進め、両方が成立した時点で協議会とその部会との関係になることも想定。
 個別の事業者は各立場を代表する団体に出席をゆだね、オブザーバーとなるように推奨。

第2回ワークショップテーマ

登山道維持管理部会で 行いたい取組

※第1回ワークショップで出た心配や課題を解決する方策を考えることが答えになる可能性大。

※部会それ自体が、個別箇所の維持管理作業の実行部隊にはならないことに注意。

（総合調整と合意形成＝各主体が行う活動の連携強化や相乗効果を創出することが役割）

第2回ワークショップテーマ

<想定される取組>

①維持管理活動のPDCAサイクル実施と検証

- ・歩道等維持管理実施手順マニュアルに基づく関係者間の調整、作業結果の検討
- ・活動の広報、人材育成（セミナー、ボランティア受入）、技術の蓄積と伝承

②登山道等維持管理の適正化に向けた議論

- ・歩道事業未執行区間の解消
- ・施設の老朽化対策

※これだけでよいのか？このほかに実施すべきものはないか？

※想定される取組を具体的に実施するために必要なことは？

ワークショップの進め方

WSの進行のルール

- 付箋の書き方
 - テーマ毎に色違いの付箋で
 - 1つの付箋に1つの考えを
 - マジックで2行くらいで簡単に書いてください
 - 片隅に自分の名前を書いていただければ有難し(無記名でもOK)
- オフレコとしたい場合は言ってください。
 - 議論の記録は取りますが、言いたいけど記録には残したくない時は「オフレコ」と言って意見を願います。その意見は記録には残しません。

ワークショップ

第1回WSの結果を受けて、情報交換会→登山道維持管理部会とする提案に対して..

<意見をいただくテーマ>

①部会では何を実施したいか？すべきか？
(=今の情報交換会で足りないものは？)

②部会に必要なもの、こと、機能は何か？